

【テーマ】 三つのポリシーの実質化に求められること

ーその意義と準備すべきことー

【講師】 沖 裕貴氏 立命館大学 教育開発推進機構 教授

京都府生まれ。名古屋大学理学部数学科卒業。京都教育大学大学院教育学研究科修了。京都経済短期大学、山口大学を経て、2006年4月から立命館大学教育開発推進機構教授。

専門は高等教育学、教育工学。所属学協会は、大学教育学会（理事）、日本教育情報学会（理事）、日本高等教育開発協会（会長）など。

【内容】 昨年3月に中央教育審議会大学分科会より示された「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」は、大学教育にどんな変化を求めているのか、私たちは具体的に何を準備しなければならないのかについて分かりやすく解説し、皆様方と議論したいと思います。

【テーマ】 高大接続改革を問い直す

ーアドミッション・ポリシーの意義はどこにあるのかー

【講師】 濱中 淳子氏 東京大学 高大接続研究開発センター 教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。著書として『検証・学歴の効用』（勁草書房、2013年、第37回労働関係図書優秀賞受賞）、『大衆化する大学ー学生の多様化をどうみるか（シリーズ大学第2巻）』（編著、岩波書店、2013年）、『「超」進学校開成・灘の卒業生ーその教育は仕事に生きるか』（ちくま新書、2016年）、『教育劣位社会ー教育費をめぐる世論の社会学』（編著、岩波書店、2016年）など。教育社会学専攻。

【内容】 高校と大学の円滑な接続を図るべく、アドミッション・ポリシーの見直しを中心とした入学者選抜の改善が求められている。「学力の三要素」といったキーワードも飛び交っているが、では、そもそも「望ましい」とされる選抜とはどのようなものなのか。アドミッション・ポリシーの見直しは、学生たちにとってどのような意味を持ち得るのか。これまでのさまざまな調査経験から浮かび上がったひとつのストーリーを提示する。

【テーマ】佐賀大学における学習成果の可視化と質保証の取り組み

【講師】皆本 晃弥氏 佐賀大学大学院 工学系研究科 教授

1997年九州大学大学院数理学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（数理学）。2000年に佐賀大学工学部に講師として着任後、応用数学の研究教育に従事し、2007年より高等教育開発センター（現、高等教育開発室）の併任教員として学内の教育改革に携わり、現在は、高等教育開発室長、教育質保証専門委員長などを務める。数学教育学会、大学教育学会、情報処理学会等の会員であり、JABEEの審査長の経験も有する。著書として「ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド」（近代科学社、2012年）、スッキリ数学シリーズ（近代科学社）など。

【内容】佐賀大学では、学生の学習成果および教員の教育活動の可視化ツールとして、それぞれラーニング・ポートフォリオとティーチング・ポートフォリオを導入している。本講演では、これらを使った内部質保証体制の構築と実際の運用について説明する。